



Scandinavian Style

Nordic Sense in Paris



間接照明でぬくもり ある雰囲気作りを

北欧スタイルのインテリアで重要な要素となる、柔らかな光の照明。フィフィさんの家では間接照明を多用し、温かな雰囲気を演出。(右)ダイニングにある照明。間接照明をつければ明暗のグラデーションができ、部屋に奥行き感が (上)リビングにある貝のランプ。何気ないコーナーも印象的に



パリのインテリア らしい"見える収納"

「夫も気に入っているの」という、壁がミルキーピンクのキッチン。ここではパリの住宅に多い、食器やキッチン道具を表に出して見せる収納に。(左)パリらしいカラフルなキッチン全景。壁にクギを打ってフック代わりにし、調理道具をかけている(上)食器は色と大きさを分けて機能的に収納

色使いで遊び、
照明でぬくもりを演出。
すっきりしつつも
楽しいインテリア

Fifi Mandirac フィフィ・マンディラックさん グラフィックデザイナー



花や子供の顔をモチーフにした柄で、パリでも人気のグラフィックデザイナー。現在、37歳で2つ上の夫、ジャンさんと2歳になる長女、スージーちゃんと3人暮らし。http://www.fifimandirac.com/



すっきりとした空間に北欧風の脚の細い家具や、カラフルなものをボンと置いて、赤とターコイズブルーをポイントカラーにし、白の面積の多い部屋を引き締めている



100年に建てられた物件を06年に購入。赤、青、ベージュのカラーが印象的な外観

中庭に面した大きな窓からたくさんの光が入り、また、仕切りが少なく開放感もある一軒家。フィフィさんが暮らすのはすっきりしつつも、カラフルなものがキュッと詰まった空間です。心地よい暮らしが大切だから、好きなものに囲まれていてだけ」と話しますが、部屋のアクセントとなるフアブリック使いや、陰影で部屋の奥行き感を作る間接照明、脚付きで軽やかに見えるキャビネットなど、そこにはふんだんに北欧スタイルのエッセンスが。床も壁も真っ白で、そうしたインテリアアイテムを一層目立たせてもいます。

「家を買った時に茶色だった壁を、リフォームの時に全部白にしても良かったんです。後で何色にも塗り替えられるようにしたのですが、小物で色をたくさん使っているのでこのままがベストみたい(笑)。北欧のインテリアはパリでも人気で、私もその美しいデザインは大好き。ただ、家には祖父母からもらったものやプロカントで買ったものもあります。それらと、IKEAなどで買う新しいものを取り入れながら、北欧テイストだけにとらわれない私らしいスタイルが作れればいいなと思っています」



リビングの壁際にある家族写真の数々は、サイズの違うフレームで高低差をつけながらセンスよくディスプレイ。フレームはプロカント(ノミの市)で買ったものがほとんど



脚付きキャビネット 空間にすっきり感を

- ① 夫の実家で使われていたというキャビネット。細めの脚がついているのが北欧家具の特徴。床面をすっきり見せ、軽やかなイメージを作る
- ② 中2階のダイニングからリビングを望む。すっきりとした空間にカラフルなファブリックをきかせるのも北欧スタイルの楽しみ方
- ③ すっきりとした空間で赤や黒をアクセントカラーにした。色のセレクトがいかにパリらしい